

2020 TOP INTERVIEW 下野新聞 第4部

# 新しい時代を見据えて

— 県内トップ135人が描いた将来像 —

県内の企業・団体のトップが新年の抱負などを語る「トップインタビュー」に、今年も過去最多の135人にご登場いただきました。2020年代のスタートにあたり、「大きな変化が待ち受ける時代がいよいよ始まった」「時代に流されることなく自己を貫くかが問われる」と捉える県内経営者が多いようです。今年はいよいよ東京五輪・パラリンピックが開催されます。自動運転やキャッシュレスなどデジタル化はますます進みます。人口減少、高齢社会に伴う労働環境の変化、自然災害など懸念材料は年々増えています。そうした中で迎える2020年。県内企業・団体のトップはどのように新時代を見据えているのでしょうか。

企画・制作 下野新聞社営業局

掲載されている「2020 TOPインタビュー」の紙面のうち本文を併せて再編集し2月1日、新木橋出身者が活躍する主に県日本の大学等の25校にお送りします。次代を担う大学生にもトップ135人のメッセージを伝えます。また、下野新聞ホームページ「SOON」でもご覧いただけます。500円



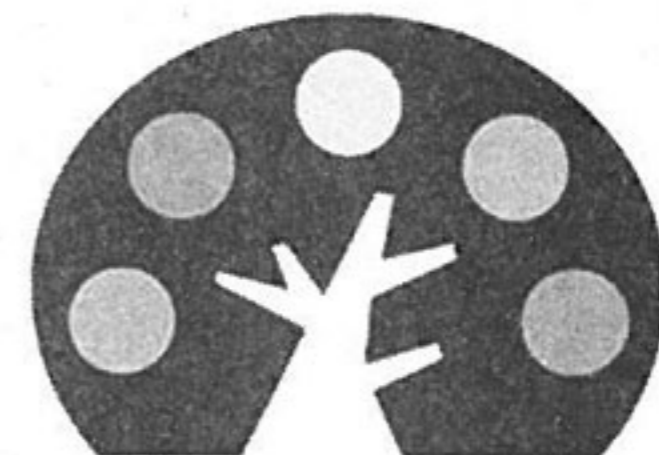
(株)ファーマーズ・フォレスト

代表取締役社長

まつもと ゆずる  
**松本 謙氏**

Local Business Frontier

～日本のローカルをワールドクラスにする地域商社～



FARMERS FOREST GROUP

株式会社 ファーマーズ・フォレスト

<http://farmersforest.co.jp>

〒321-2118 宇都宮市新里町丙254

☎028・665・8800

## 沖縄で新たな施設開業へ

2018年に沖縄県うるま市にオープンさせた農水産業振興戦略拠点「うるまマルシェ」に続き、今年2月、同県大宜味村の「道の駅おおきみやんばるの森ビジターセンター」の運営に着手する。世界遺産登録を申請している山原地域の活性化を図り、観光面も充実させる。さらに「地域特性を踏まえ日常的な買い物支援の新たな機能を備える拠点にもなります」。「うるまマルシェ」と併せ、沖縄県全県をカバーし、栃木県とも相互交流する新たな体制が整う。

東京五輪・パラリンピックを、インバウンドの契機と捉えつつも、その先を見据えたプロモーションが必要と指摘。「道の駅うつのみやろまんちっく村」も、今秋、マリオット・インターナショナル社のホテルオープンが控えており、「観光地・宇都宮としての新しいステージを提

案するために、一部リニューアルや多言語対応や決済方式などの新たな仕組みの導入やサービス改善を考えています」。大谷地区については「魅力ある施設ができていますので、それらを横につなぐ2次交通がほしいですね」。

同社が打ち出すビジネスモデルとは間違いありません。その基盤づくりを進めていきたい」と強調する。農業者を支援する6次産業化センターとしての顔も持つ。6次産業化は一定の広がりを見せているものの、消費の在り方や業態の変化など外部環境の変化に戸惑う生産者も多

いと分析する。「私たちがつなぎ役を果たさなくてはいけないと思っています」。半面、斬新な取り組みができれば、一気にチャンスが広がる可能性もあり、「若い人たちには柔軟な発想を持って挑戦してほしい」とエールを送る。